

リコーダーとチェンバロによる ナポリのリコーダーソナタ

リコーダー

本村睦幸

チェンバロ

根本卓也



レオナルド・ヴィンチ:リコーダーソナタ ハ短調
レオナルド・レーオ:リコーダーソナタ 第1番 ヘ長調
ニコラ・フィorenツァ:リコーダーソナタ イ短調
ドメニコ・スカラッティ:通奏低音つきソナタ ト長調 K. 91
カルロ・ジェズアルド:君主のフランス風カンツォン(チェンバロソロ)

2017年 1月17日[火]

Space 415

中野区新井2-48-12
<http://space415.info/>

JR中央線/東京メトロ東西線
中野駅北口より徒歩12分

野方警察署近く、区立野方児童館の隣
「芦野」の表札がある入口をいってすぐ右の建物の2階

休憩なし60分のトークコンサート

同プログラム3回公演

昼 13:30 開演 (13:00 開場)

夕 16:00 開演 (15:00 開場)

夜 19:40 開演 (18:30 開場)

全自由席 ¥3,000 要予約

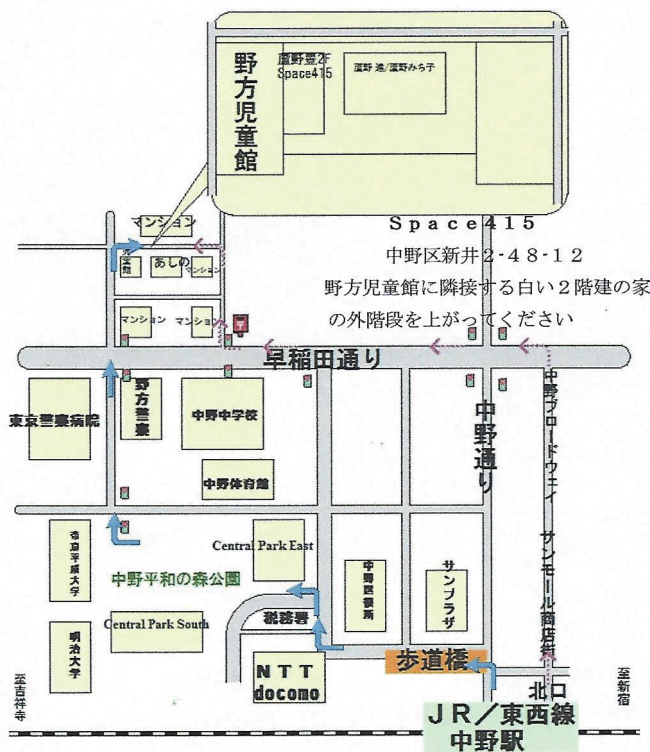
■ご予約・お問い合わせ

デ・ルストホフ: lusthof.concerts@gmail.com

あしの: 090-6045-9311

<http://mutsuyukimotomura.com/>

中野の Space 415 で、トークを含め、休憩なし 60 分のプログラムを 1 日 3 公演行う「小さな室内楽。第 21 回は、チェンバロの根本卓也さんをゲストにお迎えして、ナポリの作品をお聴きいただきます。18 世紀のナポリは、ナポリ楽派と呼ばれる作曲家たちが活躍するオペラの中心地で、ヨーロッパ中の憧れを集めていました。小さな室内楽でもこれまで取り上げてきましたが、ナポリ副王だったハラッハ伯爵の手稿譜コレクションなど、近年はオペラ以外にも色々なナポリの作品が発見されています。劇的な表現にあふれたこれらの作品をオペラの専門家でもある根本さんとの共演で聴いていただけるのは大変楽しみなことです。加えて、ナポリ楽派の 100 年前のナポリで驚くほど斬新な音楽表現を開拓していたジェズアルドの作品もチェンバロソロでお聴きください。どうぞお楽しみに。



中野駅より徒歩約 13 分、赤系、青系矢印どちらからもいらっしゃれます。が、お薦めは北口左手のエスカレーターを上り平和の森公園を通り抜ける青系コースです。

小さな室内楽第 22 回予告

2 月 24 日 (金)
 本村睦幸 (リコーダー)、土居瑞穂 (チェンバロ)
 < テレマンの作品いろいろ >

本村睦幸 Mutsuyuki Motomura (リコーダー)

アムステルダム音楽院卒。W. ファン・ハウエらに師事。アムステルダムを拠点とする十余年に渡る活動を経て、2001 年に帰国。リコーダー音楽が花開いたルネサンス・バロック時代の室内楽の楽しみを現代に活かすことを夢見て、愛好家の方々にとっての聴く喜び、奏でる喜びの双方を見据えた活動を展開している。2009 年には「東京リコーダー音楽祭 2009」(読売新聞社主催)のディレクターを務めた。現在は、リコーダーに本来的な小さなサロンのあり方を探る「小さな室内楽」シリーズを東京での活動のベースにおきながら、リコーダーの様々なレパートリーを網羅的に取り上げる「本村睦幸リコーダーシリーズ」や、古楽器に限らない多様な演奏家との共演、現代作品の委嘱なども通してリコーダー音楽の可能性を追求している。CD に「オランダバロックの愉悦」、「バルサンティ:リコーダーソナタ全 6 曲」、「無伴奏リコーダー 600 年の旅」があるほか、昨年は、CD「テレマン:無伴奏フルートのための 12 のファンタジア」に加えて、同曲集のアルトリコーダー版を全音楽譜出版より校訂出版している。ホームページは、<http://mutsuyukimotomura.com/>

根本卓也 Takuya Nemoto (チェンバロ)

東京藝術大学大学院修士課程(指揮専攻)修了。在学中に、バッハ・コレギウム・ジャパンの鈴木雅明氏との出会いから古楽へと傾倒し、修了後渡仏。リヨン国立高等音楽院で、通奏低音のディプロマを取得。帰国後は「アンサンブル・ラ・レヴェランス」「アンサンブル・ミリム」「ジュゴンボーイズ」等のグループで、指揮者・チェンバロ奏者として活躍。作曲家としても、渡仏時代にオルガン連弾作品《Thème et Variations》が、音楽出版社 Delatour 社主の目に留まり出版。第 3 回東京かつしか作曲コンクール 2015 第 3 位入賞(1・2 位無し)。2016 年 6 月には、サクソ・歌とのトリオ「Nemo Concertato」で、谷川俊太郎の詩に寄せた CD ブック『大人のための俊太郎』を上梓(アルテス音楽出版刊)。現在、新国立劇場オペラ部門音楽スタッフ(指揮)として年間を通して公演に寄与する傍ら、演奏・指導の両面で活動の幅を広げる。2016 年 5 月には、ラモーン《プラテ》で、ピリオド楽器のオーケストラを率いて、オペラ指揮者デビューを飾る。HP: <http://nemototakuya.info/>